

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 社会健康医学系専攻

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : III「教育方法」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 : 授業形態の組合せと学習指導方法の工夫

社会健康医学系専攻においては従前より教務委員会による授業評価・学生からの意見聴取等を通じてバランスの取れた教育課程が設定されるシステムとなっている。授業形態については事例研究を積極的に行い、少人数での意見交換により受講生全体での双方向性・多方向性の討論を行うことを基本としている。さらに平成20年度より選択科目として「フィールド調査」を開講しており、滋賀県長浜市での遺伝子解析を含む疫学研究への参加機会を提供している。これにより現地調査だけでなく、インタビューやコミュニケーション、個人情報保護からデータの整理・管理・返却まで疫学研究の実践に即した一貫したプロセスを学ぶことが出来る。

またシラバスについてはコース名、担当分野、コースの概要、学習到達目標、教育・学習方法、コースが行われる場所、コースの予定、学習資源、学生に対する評価方法、オフィスアワーおよび留学生向け英文資料からなるものが作成され学生に配布されるだけでなく、専攻HPでいつでも閲覧、利用できるようになっている。

これらの取組みについては平成20年度に行われた専門職大学院認証評価の報告書において一般に公開されている (<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/J/results/pdf/H20senmonsyoku.pdf>)。また、平成19年度には社会健康医学系専攻全教員が参加したファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施し、コア科目(必修科目)の再編成を行うとともに、学生に対する授業アンケート結果や教員相互の授業評価等を通じて提起された指導体制、方法における課題について検討した (<http://www.pbh.med.kyoto-u.ac.jp/index.html>)。さらに、毎月開催される専攻の全教員参加による教員会議において、充実した授業形態や学習指導法に向けて継続的に議論を重ねている。FDは平成20年度・平成21年度も継続して実施しており、本専攻の教員が一丸となって教育の更なる改善を行っている。